



pulse

Yamaha Design Laboratory
at Milan Design Week 2019



Pianissimo Fortissimo

Pianissimo Fortissimo は演奏できる壁面作品です。

大きな絵と対峙すると、まるで自分がその世界にいるかのように感じるがあります。

その感覚のまま、世界に触れることができるとしたらどうでしょう。

絵画的の世界の中に浸りながら、実際に演奏できたら、心が深く深く没入していく様を感じることができるのではないのでしょうか。

pulse

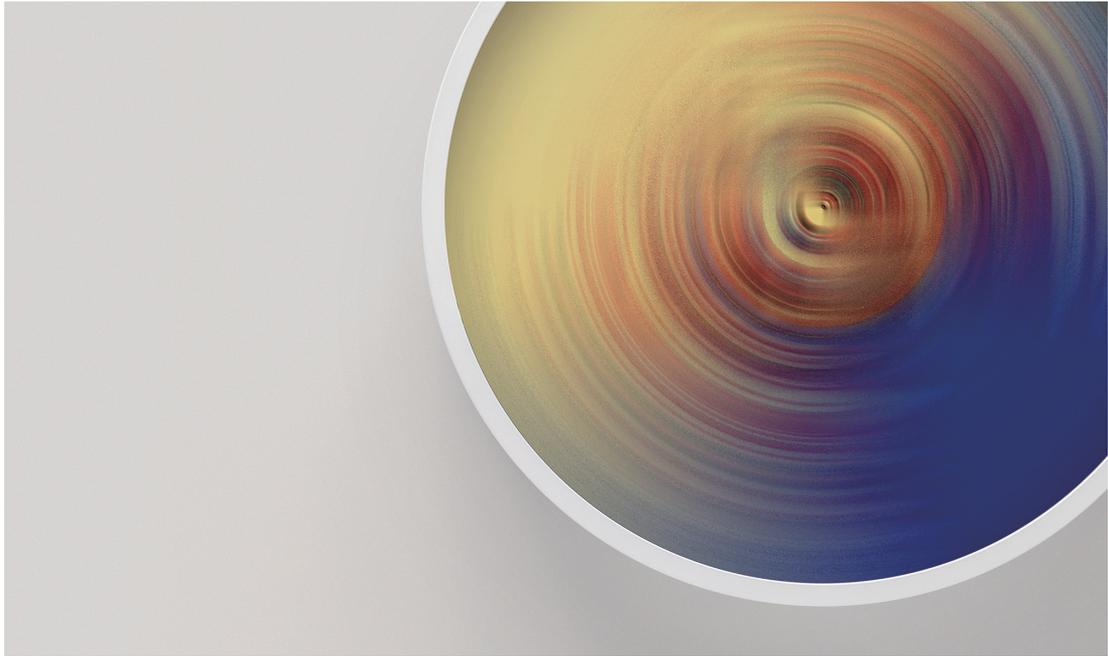
Yamaha Design Laboratory



Fine Rainy Days

Fine Rainy Days は雨音を発生させる Hourglass です。雨の日を感じる、気だるさと心地よさが入り混じった感覚は、誰もが感じる精神体験といえます。

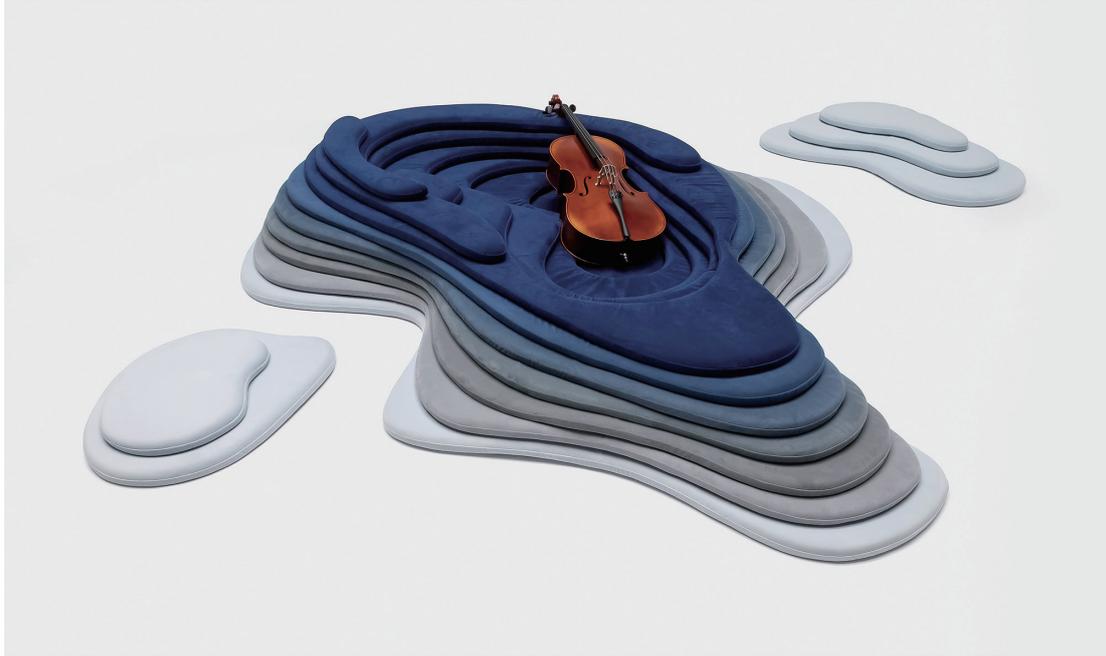
カプセルに封入された疑似風景にビーズが降り注ぐ、たった1分間の時間のうちに、心がずっと安らいでいく変化を感じとることができるでしょう。



Kinetic Silence

Kinetic Silence は音と画の変化によって心地よい空間をつくり出すサウンドプレイヤーです。
私たちの身の回りにある都市の音、人々の話し声、機械音は、普段は騒音とよばれますが、これがとても気持ちよく感じられる瞬間もあります。

騒音が BGM と変化する、自分だけの瞬間を模索する行為に集中できます。



Sound Gravity

Sound Gravity は、楽器の音と振動が身体を包み込むオブジェです。音楽を感じる心の状態は複雑であり、相反する感情が共存したり、旋律によってせわしく揺れ動いたりします。チェロを抱え、音に沈み込んでいくような体験で、いつもより増幅された感情のコントラストを味わえます。

多種多様なプロダクトが急速度で生まれては消えていく現代。

様々な取組みも体験さえも 情報として消費され忘れ去られていく現代。

それはクリエイティブの価値が再び問われ始めている時代といえます。

ヤマハデザイン研究所は 2005 年から 2008 年までの 4 年間、当時まだ日本のインハウスデザイン部門としては珍しい試みでしたが、自らの世界観を表現した作品群を発表し、世の中の反応を肌で感じることで独自のデザイン哲学を深め、アイデンティティを鍛えることを目指して、ミラノサローネに出展して参りました。

このたび、実に 11 年振りとなるミラノサローネ出展にあたって活動の原点に立ち返り、大マジメに遊ぶ精神を大切に、考え方を考えることから社内議論を深め、既存の枠組みに捕われず、デザインを楽しみ、クリエイティブの可能性を拡張し得る作品群を選出してきました。

人間の持つ複雑な感覚、高揚感と安心感、開放感と没入感が入り交じった、心からの満足感や充足感のようなものについて考察を深め、鼓動、脈動、情動を表わす『パルス』という言葉に着目しました。それは、「気持ちの昂ぶりの中で、ふと安らぎを感じる瞬間」「あたり前の景色の中に、新鮮さを感じる意識の変化」など、名状しがたい感覚の中に潜む『心の躍動』という意味を持ちます。

未だ荒削りの実験ですが、そこには皆様の『パルス』に問いかけ、響き合う『何か』がきっと宿っているものと信じています。

ヤマハ株式会社
デザイン研究所所長 川田 学

pulse

Yamaha Design Laboratory